

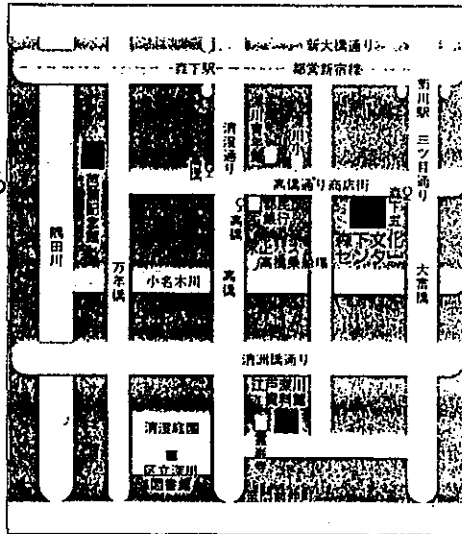
# ユーラシアンホットライン

## (トピック)

### ■7月15日(日)に第1回留学生懇話会を開催

#### ユーラシアンフォーラム —多民族多文化社会の行方—

- ①.テーマ:ウイグル文化と「西部開発」  
 ゲスト:ミリアリ・ユヌス  
 (亜細亜大学大学院経済学研究科修士課程)
- ②.テーマ:サハの暮らしと文化  
 ゲスト:ナターリア・ニューストロエヴァ  
 (千葉大学文学部研究生)
- ※ナターリアさんは民族衣装で参加して頂ける  
 そうです。



日時: 7月15日(日)午後1時半~午後4時  
 場所: 江東区森下文化センター  
 主催: ユーラシアンクラブ  
 参加費: 500円(資料代等)  
 ※スピーチの後、ゲストとの交流会を実施し  
 ます。事前連絡の必要はありません。当日  
 受付にて参加費をお支払ください。

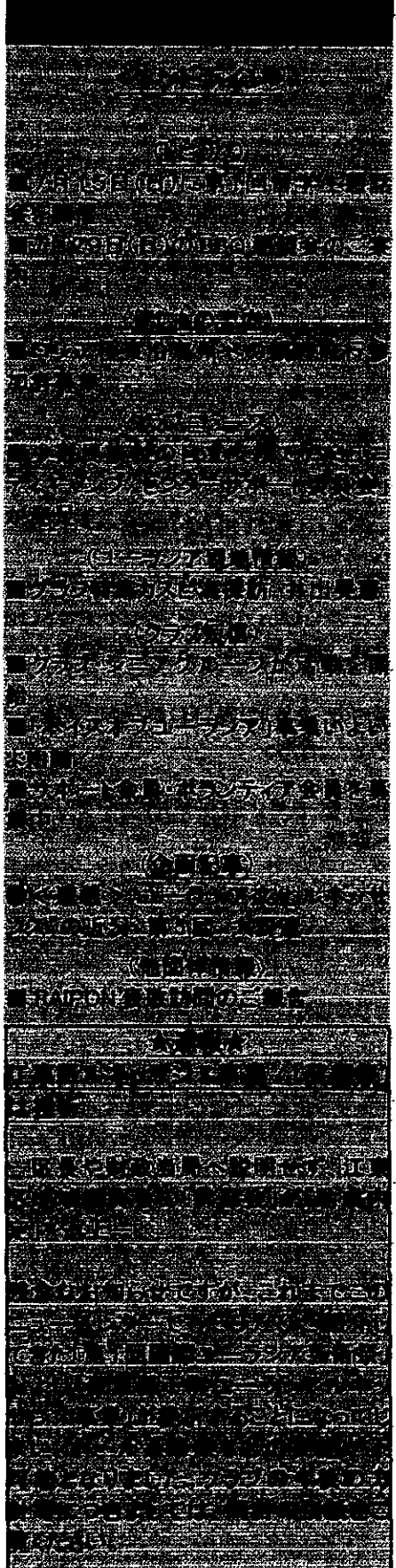
開催趣旨: ユーラシア地域の民族文化、暮らし、社会、言語、習慣について多くの方に理解していただくため、この地域を出身とする留学生をお招きして講演会を実施いたします。名付けて、ユーラシア留学生懇話会「ユーラシアンフォーラム-多民族多文化社会の行方-」です。日本にとって遠いようでありながら、実は日本文化とのつながりの深いユーラシア地域について少しでも理解が深まればという思いでこの催しを企画しました。皆様方の振るってのご参加をお待ち申し上げます。今後も継続して、毎月1回、森下文化センターで、日本人と文化のふるさとであるユーラシア各地からやってきた留学生の方々からさまざまなお話をうかがう「ユーラシアンフォーラム-多民族多文化社会の行方」を実施していく所存です。なお、第2回は8月26日を予定しており、ウイグルのラフツップ演奏家ママト・ウメルさんとアゼルバイジャンからの留学生ザウルさんに講演していただく予定です。

### ■7月29日(日)のBBQ懇親会のご案内

クラブの会員とボランティアスタッフさらにユーラシアからの留学生と懇親を深めるため、バーベキュー大会を企画していることは前号でお知らせしましたとおりですが、開催期日も迫って参りましたので、再度ご案内を致します。

日時 平成13年7月29日 日曜日 午前10時から午後2時  
 場所 都立葛西臨海公園バーベキュー広場  
 JR京葉線 葛西臨海公園駅下車3分

東京湾に面し海水浴もでき一面芝生で緑も濃い。入場は無料です。園内には有料ながら都立水族館・大観覧車・ホテル・レストランが有ります。帰途は船で都内に行けるルートも有ります。車でも来れます。付属駐車場は最初の2時間まで400円で後は30分毎100円?いづれにしても早く来ないと待たされます。コンサート出演者のプロマイド写真撮影会も予定しており、ユーラシアの芸術家が多数参加され演奏も披露していただけるでしょう。皆さま振るってご参加下さい。



## (催し物案内)

### ロシア極東沿海州への親睦旅行参加者募集

～ナナイ、ウデゲ民族理解・親睦・協力促進ツアー～

目的:日本対岸の先住民の暮らし、文化、言語の理解を目指し、人々との親睦、協力の関係を発展させる。

趣旨:ロシア極東地域の先住民族村を訪問。自助努力の拠点となる村のコミュニティキャンプ、コミュニティセンターの完成に協力。むらづくりに取り組む村民有志と管理委員会を形成し、少数先住民族の文化理解、親睦、協力の活動を発展させる。

旅行時期:8月17日から24日の8日間

旅行ルートと内容:新潟空港発ハバロフスク着。車でアムール川岸辺の民族村、シカチアリヤン村でホームステイ。村民や子供たちと交流。キャンプの整備協力。車でビキン川沿いのウデゲの民族村を訪問、「デルスウザーラ」ゆかりの原生林の狩猟小屋を訪ねる。

同行者:大野 達(ユーラシアンクラブ代表)

#### <スケジュール概要>

第一日目:8月17日(金)新潟ーハバロフスク。空港からシカチアリヤン村へ直行。

第二日目:8月18日(土)シカチアリヤン村小学校訪問。ナナイ語学習。博物館見学。民族芸能鑑賞。ペトログリフ見学。

第三日目:8月19日(日)ボートでアムール川遊覧、中州でバーベキュー、釣り。

第四日目:8月20日(月)シカチアリヤン村からクラスニヤル村へ移動。

第五日目:8月21日(火)クラスニヤル村小学校訪問。ウデゲ語学習。狩猟組合訪問、村民との交流会。

第六日目:8月22日(水)ビキン川遊上。猟師小屋で一泊。

第七日目:8月23日(木)夕方シカチアリヤン村に移動、シカチアリヤン泊。

第八日目:8月24日(金)ハバロフスクー新潟

注意:

現地事情でスケジュールが変わることがあります。必ず寝袋、野外トレッキングに必要な装備、その他釣り具、双眼鏡、医薬品、トイレトペーパー、ヤッケ等防寒具、防虫ネット等ご用意ください。

旅行費用と開催条件:一人15万円(ビザ代別)。10人。

振込先:第一勧業銀行虎ノ門支店

普通1778313 ユーラシアンクラブオオノリョウ

旅行主催:トラベル世界

旅行企画:特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ



ビキン川をボートで遊上

## (クラブニュース)

### 少数民族村の自立支援で「コミュニティキャンプ/センターサポート委員会」が発足

以前のニュースレター4月号で、ロシア極東沿海州のクラスニヤル村の住民主体の民族文化産業再生拠点「ウデゲ・コミュニティセンター」を創設する事業のために、国際開発救援財団に申請していた件と、シカチアリヤン村のコミュニティキャンプ整備補修事業のために財団法人地球市民財団に申請していた件、ふたつの助成金申請がともに却下されたことをご報告しました。さらに5月号で、これらふたつの事業についてクラブが独自に委員会を立ち上げて推進していく旨ご報告しました。先日いよいよ少数民族の自立支援のために「コミュニティキャンプ/センターサポート委員会」が発足いたしましたのでお知らせいたします。

1. 極東先住民村シカチアリヤンのコミュニティキャンプ整備補修事業

目的:ロシア共和国ハバロフスク地方ハバロフスク区シカチアリヤン村に所在するコミュニティキャンプ(約2ヘクタール)を、先住民族ナナイを始めとする極東少数民族の文化伝承とシカチアリヤン村の福祉、産業開発の拠点となるコミュニティキャンプとして活用するため、シカチアリヤン村役場およびシカチアリヤン村事業組合、シカチアリヤン村初等中等学校および住民有志で構成する「シカチアリヤンコミュニティキャンプ管理運営委員会」が管理運営するに際し、可能な協力方法等を協議実施することを目的とする。

事業費総額:741,428円

(内訳:建物修理材料393,428円、揚水ポンプ300,000円、作業労賃48,000円)

別紙でご報告したとおり「江東区下町ユーラシア文化ルネッサンス事業」が挫折、事業の修正を行うことになった。事業の提案にある考え方が間違っているとか、悪いというものではなく、あくまでも江東区地域振興会の内部事情によるものである。今後は、深川仏教会や日本民謡協会、その他との話し合い、協力を進め、民間ベースで、事業実施の基礎体力を養いながら、大いに事業を再構築したいと思う。

そこで今回は、私がなぜ「江東区」に事業を提案したかという点について、少し書いて置くことにした。私は、かつて北方ユーラシア学会の事務局長として、中山外相とゴルバチョフ書記長(いずれも当時)が会談した際に交わした政府間交換公文書で決まった「パジリク王墓発掘」事業の日本側事務局長を務め、日本から百人ほどの学者や発掘機材を届け調査をしたことがあり、またウラジオストク南部の豆満江河口近くにある渤海土城調査を進めたことがある。それらの活動を通して、歴史考古学的にユーラシアは、旧石器の昔から江戸時代まで、環日本海交流の多くの証拠が挙げられ、まさに日本列島は「ユーラシア大陸に開けたパラポアンテナである」と語れるようになった。シルクロード、朝鮮半島経由の仏教文化、シャーマニズム、騎馬文化だけでなく、北方ルート多くの交流があったことは、百回を超える文化講座シリーズでその一端を紹介できたつもりだ。

幕末明治以降、ロシア及びソ連の時代になって、北陸から新潟、北海道にいたる日本海側が、西欧中心の表日本文化が喧伝される一方で「裏日本」と呼ばれ、ほそぼそとユーラシア情報を蓄積してきた。その中心に新潟があり、「環日本海経済交流圏研究会」などの先駆的な活動も生まれた。1980年代にそうした団体のリーダーとの交流も持ち、新潟が東京へのユーラシア情報の発信拠点になると考えていた。そうこうする

うち旧ソ連が崩壊、私はソ連時代に訪ねたエベンキ、ユカギール、ナナイ、プリヤートなどシベリアの少数民族の人々を念頭にボランティア暮しに入った。交流の活動軸として、新潟—東京を考えるとというのは、ユーラシアンクラブ設立当初からの発想の一つだった。新潟で「ユーラシアコミュニケーションフェス in 小出」を3年間実施したり、群馬で「ユーラシア文化村」を提案したり、今回「江東区下町ユーラシア文化ルネッサンス」を提案したのも、ユーラシアを視野に入れたまちづくりが地域や日本の文化再生に合うという信念からである。「個人の思惑」「組織内部の事情」など事業の進展は順調とはいかないものの、確実に「ユーラシア文化ルネッサンス」の土壌は広がってきつつあると言える時代の変化が見えるようになってきている。

「ユーラシア外交」を掲げた政界、経済界に続いて、音楽指導要領まで「ユーラシアを視野に伝統文化を見直す」と打ち出した。詳しい内容は、皆様にお届けした「各位へ」という企画書に書いた。芸術文化のまちづくりについては、昨年6月、超党派の国会議員連盟「音議連」が芸術文化振興法を今後の最大課題と決定しており、すでに一部の政党が先走り始めるなど、少なくとも音楽文化を視野に入れた芸術文化のユーラシア文化ルネッサンスは時代の趨勢になる形成なのである。新潟以来努力してきたコンセプトの骨格は明快になっており、「組織の内部事情で挫折」という事情にもかかわらず、ユーラシア文化ルネッサンスの方向は変える訳にはいかないのである。また日本の音楽文化を育んだ「社寺文化」を日本文化の特色の一つとすると、江東区が日本の伝統的文化及びユーラシア文化の時空を超えた終着駅であって、新しい文化の始発駅になるという文化のまちづくりのコンセプトも変える訳にはいかない。切にご理解をお願いしたい。

## 2. 住民主体の民族文化産業再生拠点「ウデゲ・コミュニティセンター」創設事業

目的: 村の外れに建設途中で放置された狩猟小屋を完成させ、村の成熟した猟師、伝統文化の継承者である老人、芸術家が、若い猟師や放課後の児童を集め、民族存続の基盤となった原生林の知識、暮らしの智慧や言語文化を伝授し、極東先住民の死活の課題となった生き残り戦略と技術、産業文化再生の方向について、住民主体の意識向上運動として言語文化教育と産業開発研究を実施する。この事業によって、志のある村の住民を中心として老人、青年、児童が、「自助努力」「自立」といった意味を体現する人事の育成につながり、日本人にとっては、現地への訪問と交流を通じて、今日的課題となっている自然環境との共生と民族の共生を考える活動の場となることを考えている。

事業費総額: 463,000円  
(内訳: 言語文化継承教師等120,000円、建設材料費等343,200円)

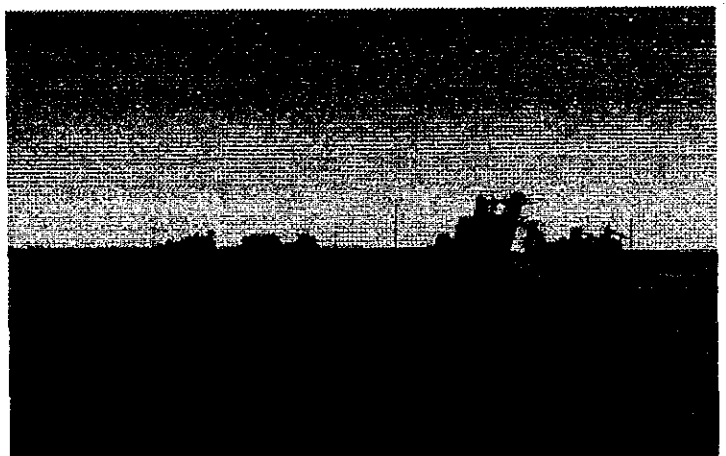
ご寄付のお願い: 1口2万円  
寄付者は「コミュニティキャンプ/センターサポート委員会」にご参画いただきます。  
無料宿泊利用の特典があります  
※振込先など詳細は次号でお知らせいたします

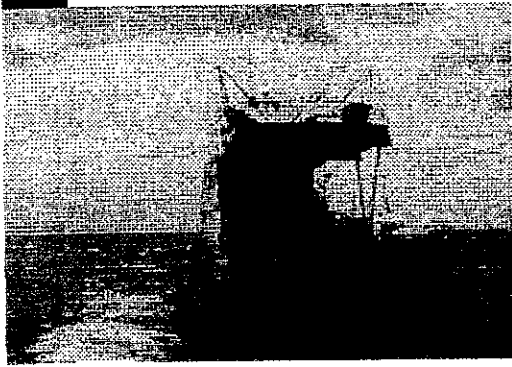
## (ユーラシア現地情報)

### ■グラフ特集～カスピ海探訪～井出晃憲

去る5月下旬にロシア連邦カルムイキア共和国を再訪する機会を得ました。今回はスナップにより、その際訪れたカスピ海の模様をご報告します。

共和国東部はカスピ海に面しており、その頃がチョウザメ漁の最盛期だった。ラガンという海辺の町に泊まり、翌朝、石油探査会社の船に同乗させてもらって沖合までクルージングした。下は港にうち捨てられた廃船。港から運河をたどって海までは20kmほどある。途中ロシア国境警備隊の検問所を抜けていく。カスピが海か湖かの結論はまだ出ていないらしい。運河の両側は見渡す限りのアシの原。沖に出ても遠浅で水深は2メートルほどしかない。





石油探査の実験船。船内には各種実験施設のほか乗組員の居住スペースや食堂も完備。この船から海に飛び込んで泳いでみた。淡水でかなりの冷たさだった。ちなみに、カスピはロシア語の「灰色」が語源だが、モンゴル語ではフフ・テンゲスと言いつ「青い海」のこと。



チョウザメ(アッシュョートル)が獲れた。密漁は法律違反だが、海上で食べてしまう分には問題ないとのこと。浅瀬のアシの茂ったあたりに定置網を仕掛けて獲る。



思わぬことに船上での豪華な昼食。焼いたチョウザメと揚げたナマス、それにカマスのマリネだった。ただし、キャビアはなかった。

## (クラブ短信)

### ■クラブ・シニアグループが活動を開始

クラブ・スタッフである井口隆太郎、江田和、田代良子、羽田節子、福井伸彦の各氏が発起人となり、ユーラシアンクラブ・シニアグループが活動を開始しました。これは、クラブの比較的年かさのメンバーが、理解・親睦・協力を目的としたクラブの各種事業の発展・拡大に向けて側面からサポートしていこうという趣旨です。先日、かつてクラブのインターカレッジ文化講座に参加された方たち(112人)に対して、ご協力をお願いする文書を送りました。

### ■「ボイスオブユーラシア」事業いよいよ始動

NPO法人化後のクラブの中核事業のひとつである「ボイスオブユーラシア」事業がいよいよ活動をはじめます。この事業は、ユーラシア各地の協力者(コントリビューター)との間でインターネットによる連絡網を構築して国際編集委員会を設け、ユーラシア各地の現地情報を定期的に

和文・英文による記事としてメールマガジンで発行、将来的には紙媒体による雑誌の発行を目指すものです。先日、国際編集委員会の舞台となる「ボイスオブユーラシア」専用のメーリングリストを立ち上げました。今後、各地のコントリビューター候補者への参加の呼びかけと確定、そして試験的なサンプル版の発行を予定しています。ご期待下さい。

### ■サポート会員・ボランティア会員を募集中

NPO法人化に伴い、クラブの会員規定も変更しています。年会費1万2千円によって経済的に支えていただくサポート会員と、スタッフとしての活動でクラブを盛り立てていただくボランティア会員を随時募集中です。お誘い合わせの上ぜひご入会ください。なお、このニュースレターはサポート会員の方のみに発送させていただいております。

<登録用紙はHPに掲載>

## (他団体情報)

### ■RAIPON表敬訪問の報告

去る6月、ロシアを訪問したクラブ・スタッフの井出晃憲氏は、モスクワにおいてクラブと以前から協力関係にあるRAIPON(ロシア連邦北方・シベリア・極東先住諸少数民族協会)を表敬訪問しました。RAIPONの概要は団体紹介パンフレットによると以下のとおりです。

.....  
ロシア連邦北方・シベリア・極東先住諸少数民族協会(英語名: Russian Association of Indigenous Peoples of the North=RAIPON)は1990年3月30日モスクワで開催された第一回北方・シベリア・極東先住諸少数民族大会において結成された。.....

本協会の目的はロシア連邦北方・シベリア・極東先住諸民族の利益と法的権利(特に土地と自然資源に対する権利)、国際基準とロシアの法制度に則った自治の権利の擁護、そして社会経済的問題の解決、文化・教育の発展における協力である。

本協会は地域的と地域民族的原則に基づき創出された30の諸地域民族的協会から成っている。これらの各協会は自己の組織と会計上の自立性を有し、全面的な支援を与えられ、またその参加による行事が定期的に持たれている。本協会は国際交流と協力を促進し、先住諸少数民族の居住区域への人道援助を組織している。.....

今回の訪問では、以前からユーラシアンクラブ代表大野氏と懇意であるハリチ・セルゲイ、スリヤンジガ・パーヴェル両氏は不在でしたが、代表代行のタマーラ・セメノヴァ女史と話し合いを持つことができました。その席上、タマーラ女史は、RAIPONの持つ30の支部には現在カナダ政府の援助によるコンピューターが設置されており、クラブの「ボイスオ

ブユーラシア」事業のために、それら支部からインターネットで送られてくる情報の提供について前向きに検討してくれるとのことでした。さらに、昨年RAIPONの結成10周年を記念して刊行された書籍について、クラブで翻訳、刊行しないかと提案を受けました。クラブでは今後RAIPONとの間でさらなる話し合いを進めていく予定です。

○編集後記: 旅をする人の思いはさまざま。先日「ロシアの正しい楽しみ方」(「勝手にロシア通信」編集部・旅行人発行・1500円)という旅行案内書を手にした。クラブのスタッフMさんから、「カルムイクのことが出ていよ」と教えてもらったからだ。同じくスタッフのHさんは、「正しい」なんて人それぞれ違うのにと実物を見る前からいぶかしげだった。

さて、バックパッカーが中心となって執筆したその本のカルムイク共和国訪問のページを開いてみて愕然とした。自分がいかに不便な秘境を「探検」してきたかを自慢げに書き、国や首都の地図すらない所だと見下したスタンスだ。(地図は本当はすぐ手に入る)「本邦、いや世界初公開!」と題して掲載された手書きのエリスタの町の地図には誤記も多い。どのようなまなざしで訪問地を見るかは大切な問題だ。同じく旅を愛する者としてよい反面教師になった。しばらく休載している「ユーラシア人物往来」は次号より必ず復活させます。

発行:NPO法人ユーラシアンクラブ

発行人:大野達 編集人:井出晃憲

2001年7月1日発行

住所:〒151-0053東京都渋谷区代々木2-13-2第1広田ビル

電話/ファックス:03-5371-5548

E-mail: PAF02266@nifty.com

Homepages: <http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/>